

「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール参加報告書」

京都大学文学部4年 前川弥優

参加前私がベトナムについて知っている事は、ベトナム戦争やアオザイ、フォーくらいだった。ベトナムという国についてもっと知りたい、日本とは異なる社会主義体制の社会はどのようなものであるかこの目で確かめてみたいと思いプログラムに応募した。

ハノイでの生活を始めてまず、道路におけるバイクの多さにとても驚いた。はじめはベトナム人学生に助けをもらいながら苦労して道を渡った。しかし日が経ち慣れるにつれて、多くのバイク、バスや車が行き交うなかを日本人学生だけでも渡れるようになった。バイクが多いのは、人々に車を買うお金が無いからである。交通の状況、整備されておらず土埃が舞うでこぼした歩道、日本より安い物価やベトナム人学生との会話からも、ベトナムは発展途上にあると感じた。

人文社会大学の授業や共同発表のための調査でベトナムについて学ぶうちに、気になっていたベトナムの社会主義体制について知ることができた。ベトナムは他の社会主義国に比べ、比較的軽度な社会主義体制である。けれどもベトナムの人々は政府による統制を受けており、それに対して苦痛を感じている若者たちがいる。社会的統制から脱して自分らしさを模索する若者たちはSNSを通じて、自分自身を発信したり政府への反発を表したりしている。ベトナムのメディアについて講義してくださった先生の、「今ベトナムは若者の力で変わりつつある」という言葉が印象的だった。また、通貨やホーチミン廟、学校の教室からもベトナムの社会ではホーチミンが祀られていることを実感した。そこからベトナムの体制や他国による支配や戦争を経てようやく掴んだ国の独立に対する人々の思いをうかがうことができて、興味深く感じた。

また、中国やフランスの影響を受けたベトナム独自の風習や文化、歴史について学べたことも面白かった。安倍仲麻呂をはじめ日本とも古くから交流があった。個人的に、私の地元である三重県の松阪や伊勢ともつながりがあることを知りとても驚いた。

大学では日本語を勉強する多くのベトナム人学生と出会った。日本よりも授業中にスマートフォンを触る学生が少なく、議論の際は仲間と盛り上がりぎやかに話し合っていた。みな真摯に授業に取り組んでいた。これからのベトナムの発展を担う彼らの姿をみて、普段の講義を受ける自分の姿勢を反省し、私ももっと真剣に取り組みたい、取り組まなければならないと思った。また、彼らやそのほか町などで出会ったベトナムの人々は心あたたく接してくれた。もちろん、良い人ばかりではなくお金をぼったくろうとする人もいたり、怖い思いをしたりすることもあった。それでも人々の優しさ、心のぬくもりが強く心に残っている。またコミュニケーションをするなかで、言葉が意思疎通に大きな役割を果たしていることや現地の言葉で話すことの重要性を感じた。

私も今後、異文化などの垣根を超え、今回出会ったベトナムの人々がしてくれたような、心ある交流や人の助けになることをしていきたい。私は来年から日本だけでなく世界中の人々が利用する交通インフラの企業で働くが、こうした思いを胸に仕事に励んでいきたいと思う。

機会があれば、次はベトナムの中部や南部も訪れてみたい。